

平成一三年産 粗飼料の傾向

例年どおり、今年も当農場に道内全域から粗飼料の試料が送られてきており、その分析を行っています。

さて表題の内容についてですが、平成一三年七〜十二月までに当農場に送られてきた試料についての分析結果をまとめてみましたので、紹介したいと思います。例年に比べ、乾草とトウモロコシサイレージについては傾向が違うようです。

一 乾草の傾向

ここ数年大きな変動は見られなかった粗飼料ですが、チモシー主体の一番草を見ると、一昨年(平成一二年)産と比較すると牧草サイレージについてはあまり大きな差は見られないものの(表1)、同じ原料草を用いた乾草では粗たんぱく、TDNが若干低い傾向が見られます。この内容をもう少しほりさげて見てみると大きな違いが見られます。

乾草中のOCW(総繊維)は一

昨年産に比べ、昨年(平成一三年)産も大きな違いはありませんが、このOCW中に含まれるOb(低消化性繊維)の割合が昨年産の乾草では高くなっていることがわかります(図1)。昨年産の乾草については非常に外見も悪いものが多いようにも思いますが、成分でもこのような結果が出てきました。これらは昨年収穫時期に天候が安定しなかった事などにより、適期

に収穫できなかつたり、収穫後乾草調製に時間が掛かったことが影響したと考えます。

ニトウモロコシサイレージの傾向
一方、トウモロコシサイレージについては

表1 平成13年産粗飼料の平均値

乾燥チモシー1番草混播												
年度	水分	粗たんぱく	TDN	ADF	OCW	OCC	Oa	Ob	NFC	粗脂肪	テクニール比	
13	16.1	8.79	50.8	41.2	69.7	23.4	4.6	65.1	14.5	2.04	1.94	
12	14.5	9.53	52.2	40.5	69.1	24.8	5.1	64.0	15.0	2.19	1.82	
牧草サイレージチモシー1番草混播												
年度	pH	水分	粗たんぱく	TDN	ADF	OCW	OCC	Oa	Ob	NFC	粗脂肪	テクニール比
13	4.31	74.4	14.38	54.7	37.7	63.4	27.8	7.8	55.6	11.8	4.01	1.37
12	4.36	73.9	13.54	53.8	38.6	65.8	25.9	7.4	58.4	10.9	3.82	1.44
トウモロコシサイレージ												
年度	pH	水分	粗たんぱく	TDN	ADF	OCW	OCC	Oa	Ob	NFC	粗脂肪	テクニール比
13	4.01	74.5	8.89	66.1	30.4	50.9	42.8	15.4	35.5	32.0	3.81	1.95
12	4.12	70.1	8.87	66.4	30.3	48.8	44.2	15.5	33.3	35.0	4.02	1.69

トウモロコシサイレージ

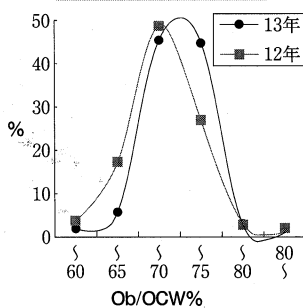


図2 OCW中のObの分布割合

チモシー混播1番草

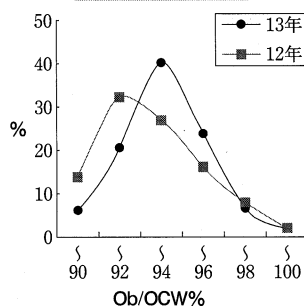


図1 OCW中のObの分布割合

夏場までの天候は良く、収量等も期待できましたが、夏以降は天候も悪かったため、思ったほど熟期も進まず、実入りも悪かったように思います。昨年産は例年に比べ水分が高く乾物率が低いのが目につきます。また、OCWが一昨年産に比べ高いだけでなく、Obの割合も高い傾向にあるのが分かります(図2)。そのため、OCC(細胞内容物)が低くなり、NFCの分布も一昨年産に比べ高いものが少なくなっています(図3)。

トウモロコシサイレージ

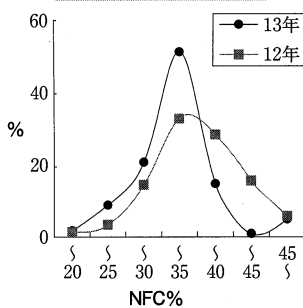


図3 NFCの分布割合

三 まとめ
一番草の乾草やトウモロコシサイレージについては、例年とは違う傾向です。前記したようにトウモロコシサイレージでは水分が高いことやNFCが低いことから、同じように採食していても、予想している結果と異なる場合が見られ、見当を間違えうかもしれません。そのため、昨年産粗飼料については分析を行い、内容をしっかりと見極めることが重要なポイントとなるでしょう。

雪印種苗株式会社

本社 062-8650
札幌市豊平区美園二条一丁目
TEL(011)831-1161
FAX(011)821-2582
編集発行人 菊地 庸

(北研 篠田)